

地域要望などで意見交換

市では、まちづくりや行政課題について市民と語り合う移動行政懇話会を8月1日から5日にかけて4地区で開催しました。市から移住定住促進事業や観光振興対策事業などについて説明するとともに、各地区の市民から様々な意見や要望を伺いましたので、その概要をお知らせします。



▲阿仁ふるさと文化センターで行われた移動行政懇話会

移動行政懇話会は、市の現状や周知事項を説明するとともに、行政への意見・要望を伺う機会として平成19年度から開催しているもので、今年度は阿仁地区を皮切りに4地区で行われ、市民約80人が参加しました。8月1日の阿仁ふるさと文化センターでは、開会にあたり津谷市長が「今回テーマとした『移住定住促進』と『観光振興対策』は、ともに市の最重要課題の一つ。特に観光面では、森吉山周辺の観光をPRし、更なる誘客を図るとともに、滞留型観光を推進するため、市内の宿泊施設の規模拡大や設備の改修への支援などに取り組んでいる。地域の皆さんから様々なご意見やご提言をいただくことで、今後のまちづくりの参考として、一緒に北秋田の未来を考えたい」とな

どとあいさつしました。続いて、市の担当職員が移住定住促進事業、観光振興対策事業について説明しました。

阿仁地区(8月1日)阿仁ふるさと文化センター

参加者から出された主な質問や意見、その回答は次のとおりです。

▼移住も大事だが、現在住んでいる人に住み続けてもらう定住対策も大事ではないか。
おっしゃるとおり。市では今年度、高校生に地元で働いてもらえるよう、介護資格を取得するための研修会の開催や企業に職業体験の実施を呼びかけているほか、大学卒業後に地元へ戻ってもらうよう、奨学金返還の助成を行っている。今後も皆さんからの意見もいただきながら様々な施策を作っていく。

▼移住のために空き家を利用しては、昨年度から空き家バンクの登録制度を開始しているほか、今年度から移住者のためのリフォーム補助制度も設けているが、利用者数は少ない。今後は、制度を周知しながら移住の促進を図っていく。

▼玉川に抜ける「ブナ森線」が、通行禁止になっている。いつになったら通れるのか。

毎年、道路の復旧工事を行っているが、毎年崩落があり、開通まで至っていない。
▼くまくま園に行く途中の前山橋が片側通行になっている。くまくま園に行くバスも通るので早期解消を。昨年の橋りょう点検の結果、大変危険な状態と判断された。現在、施工に向けて準備をすすめている。

合川地区(8月2日)合川農業環境改善センター

▼日本三大樹水ブランド化について、八甲田山、蔵王、森吉山の3か所はそれぞれの魅力がある。その中で森吉山は何をメインにブランド化を図り、誘客促進につなげていくのか。
森吉山観光振興プロジェクトで建設した、森吉山ピジターセンター「ぶらつと」を利用して、樹氷案内人の配置、ドローンで撮影した臨場感のある画像や映像を使って、森吉山樹水の魅力を情報発信し、全国に売り込んでいきたい。

▼合川小学校の屋上には、太陽光発電システムが設置されているが、発電した電気はどのように使われているか。子どもたちの学習にどのように利用されているか。
日々の太陽光による発電状況は、モニターに示されており、発電された電力は学校内で消費する電力に使

われている。子どもたちは、日ごろからモニターで発電の状況を確認しているほか、理科の授業で電力の学習が行われている。



▲意見交換の様子(合川地区)

▼国は小学校1学級の児童数を40人と定めている。都道府県はこれを下回ることはできるとしているが、秋田県は状況は。

秋田県は学習効率を上げるため少人数学級を取り入れている。小学校1年生の場合は、1学級30人を基本としている。2年生も本来は2学級のところを3学級に増やしたり、様々な手当をしている。このような取り組みが、全国学力状況調査の好成績につながっていると思う。

▼県有林は、森林認証の認可を受けた。市の市行造林と直営林を合わせ

森吉地区(8月4日)森吉コミュニティセンター

森吉山は県立自然公園だが、訪れた人々からは高い評価を受けていることから国定公園に昇格できないか。条件も満たしており、全国からの注目度も変わってくると思う。積極的な取り組みをお願いしたい。

森吉山は大変素晴らしい山だが、残念なことに森吉山に行ったことがない市民の方もいる。そうした人々にも森吉山の魅力を知ってもらい、北秋田市全体で盛り上げていく環境づくりが第一と考えている。森吉山はマスコミへの露出も増え、着実に機運が高まっていると感じている。多くの人に熱意を持ってもらえるよう取り組み、国定公園への昇格に向け研究していきたい。

▼若い世代は、衣・食・住の「住」に負担を感じている人が多いと思う。市営住宅に空きがあるようなので、移住してくる子育て世代に格安で住宅を貸すなど、思い切ったことをやってみては。

移り住むために住居は大きな問題になると思うが、生活するための仕事、子どもの保育や教育、医療、地域とのつながりなども重要と考える。提案されたような取り組みは、事例があるので、研究して良い内容のものを取り組んでいきたい。

鷹巣地区(8月5日)市民ふれあいプラザ

▼子育ては、医療費と教育費の負担が大きい。義務教育の教育費がゼロになるくらいに思い切った支援がでないか。
財源的には基金があり、できない訳ではない。しかし、今後の社会保障も考えていかなければならない。これからの研究材料にしたい。医療費は、中学生までの医療費無料化を実施している。

▼出生後の手当てだけでなく、出生前の対策を講じてほしい。
市では不妊治療の助成を行っている。昨年度の一般不妊治療費に対す

る助成は21件、特定不妊治療費は9件であった。また、高校生を対象とした介護初任者研修を実施している。その方々が資格を取得して、この地域に就職し定住してもらい、結婚して子どもを産んでほしい。結婚については「あきた結婚支援センター」に入会する際の登録料1万円を、負担軽減のため市が全額負担している。そのほか、定住支援をする施策等、様々なところから取り組んでいる。